

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

1. 実施した計画の基本的な事項

(1) 基礎情報

ア. 対象地域

構成市町村等名	南薩地区衛生管理組合						
地域内総人口（人）	130,423 人（平成29 年3 月31 日現在：住民基本台帳人口）						
地域総面積（km ² ）	858.92km ²						
地域の要件	人口	面積	半島	過疎			
地域の要件がその他の場合は具体的に記載							
構成市町村に一部事務組合等が含まれている場合、当該組合の状況							
組合名称（設立年月日）	南薩地区衛生管理組合（平成19年4月設立）						
組合を構成する市町村	枕崎市、日置市、南さつま市、南九州市（知覧町、川辺町）						

イ. 計画実施期間

開始年月日	平成30年4月1日
終了年月日	令和7年3月31日
計画期間	7年

(2) 対象地域における取組みに関する事項

ア. ごみ処理の広域化・施設の集約化の実施状況

計画開始時点の平成30年度では内鍋清掃センター、川辺清掃センター、日置市クリーンリサイクルセンターの3ヶ所でごみ焼却を行っていたが令和6年8月に廃止し、同月なんさつECOの杜が竣工し、1ヶ所に集約・広域化を行った。	
確認した都道府県の広域化・集約化計画の名称	鹿児島県ごみ処理広域化・集約化計画

イ. プラスチック資源の分別収集及び再商品化に係る実施内容

実施済の場合	実施地域	日置市（旧伊集院町）
	実施年度	令和7年度
	実施方法	④市町村・品目により異なる（詳細は下記に記載）
	上記が④もしくは⑤の場合、その詳細	容器包装プラスチックは、日本容器包装リサイクル協会への委託。 製品プラスチックは、独自処理。
実施しない地域		枕崎市、日置市（東市来町、日吉町、吹上町）、南さつま市、南九州市
プラ要件化対象事業の実施		—
備考		

ウ. 対象地域における一般廃棄物処理有料化の実施状況

有料化導入状況	①全ての構成市町村で導入済
上記が④の場合、その詳細	ごみ袋の有料化、なんさつECOの杜への直接搬入時の有料化
未導入の構成市町村名	なし
有料化導入に向けた検討状況 ※全ての構成市町村で導入済の場合は記載不要	

エ. 対象地域における災害廃棄物処理計画の策定状況

策定状況	①構成市全てで策定済
策定済の構成市（計画の名称）	枕崎市災害廃棄物処理計画、日置市災害廃棄物処理計画、南さつま市災害廃棄物処理計画、南九州市災害廃棄物処理計画
未策定の構成市（策定予定時期）	—
備考	

2 目標の達成状況

(一般廃棄物の処理)

減量化、再生利用に関する指標		現状	目標	実績	
		平成28年度	令和7年度	令和7年度	実績/目標
①総人口（人）		130,423	119,641	114,500	
排出量	事業系ごみ排出量（トン）	14,939	12,600	9,347	239%
	生活系ごみ排出量（トン）	27,766	25,701	25,616	104%
	1人1日当たりのごみ排出量（g/人日）	523	529	491	-533%
	その他排出量（集団回収等）	0	0	0	0%
	総排出量（トン）	42,705	38,301	34,963	176%
	1人1日当たりの排出量（g/人日）	897	877	837	300%
再生利用量	総資源化量（トン）	5,718	6,975	5,097	40%
	総排出量に占める総資源化量の割合（%）	13%	18%	15%	
最終処分量	埋立最終処分量（トン）	4,535	1,415	2,511	57%
	総排出量に占める埋立最終処分量の割合（%）	11%	4%	7%	
エネルギー回収量	年間の発電電力量（MWH）	0	0	13,356	
	年間の熱利用量（GJ）	0	0	0	
特記事項					

※ 排出量は実績の割合/目標の割合を記載。再生利用量・最終処分量については、（実績の割合-現状の割合）/（目標の割合-現状の割合）を記載。

(生活排水の処理)

生活排水処理に関する指標		平成28年度現状		令和7年度目標		令和7年度実績	
		人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
処理形態別人口	公共下水道	32,865人	27.7%	37,636人	34.9%	34,358人	30.0%
	農業集落排水施設等	3,846人	3.2%	4,074人	3.8%	2,793人	2.4%
	合併処理浄化槽等	46,537人	39.2%	32,552人	30.1%	53,817人	47.0%
	小計：汚水衛生処理人口	83,248人	70.1%	74,262人	68.8%	90,968人	79.5%
	単独処理浄化槽等	35,533人	29.9%	33,746人	31.2%	13,401人	11.7%
	非水洗化人口		0.0%		0.0%	10,131人	8.9%
	小計：未処理人口	35,533人	29.9%	33,746人	31.2%	23,532人	20.6%
	合計：総人口	118,781人	100.0%	108,008人	100.0%	114,500人	100.0%
し尿・汚泥の量	汲取りし尿量	17,620キロリットル		15,458キロリットル		11,568キロリットル	
	浄化槽汚泥量	44,340キロリットル		49,377キロリットル		46,659キロリットル	
	合計	61,960キロリットル		64,835キロリットル		58,227キロリットル	

2 目標が達成できなかった要因

(一般廃棄物の処理)

○再生利用料

各構成市で実施している資源化量（枕崎市：572 t、日置市：2,710 t、南さつま市：1,090 t、南九州市：580 t、合計：4,952 t）となんさつＥＣＯの杜での資源化量（144t）を合計し5,097 tの実績であったが目標達成はできなかった。

人口減少等によるごみの排出量の減少や民間事業者等の古紙類・容器等の回収が進んだため、目標達成に至らなかったと推察される。

○最終処分量

令和6年度から稼働しているなんさつＥＣＯの杜ではストーカ式の焼却炉を使用しているが、計画策定段階では流動床式の焼却炉を使用していたため、計画数値が高く設定されていることが目標達成に至らなかった1つの要因と考えられる。

(生活排水の処理)

○し尿・汚泥の量

下水道や合併浄化槽の整備が進んだため、浄化槽汚泥量は増加したが、人口減少等により目標値は上回ることができなかった。

3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和11年度まで（令和6年度策定地域計画期間 ※一般廃棄物のみ）

(一般廃棄物の処理)

○再生利用料

住民や事業者に対し、広報誌等を活用しごみの分別排出方法、ごみの排出量・資源化の現状などに関する情報提供や学校・地域社会の場において副読本等を用いた環境教育を行うことで、ごみ排出時における分別意識の向上を図る。

○最終処分量

再生利用量を増加させるとともに、構成市におけるごみの排出を減らす取組（衣類等の回収ボックスPASSTOや生ごみモニター回収事業など）の一層の推進、食品ロス等の啓発活動などを行うことで最終処分量の削減に努める。

(生活排水の処理)

○し尿・汚泥の量

引き続き下水道や合併浄化槽の整備を推進し、汲取りし尿量の減少に努める。

(都道府県知事の所見)

(ごみ処理)

今後、本改善計画書に挙げられた施策を確実に実施するとともに、更なる評価分析を行った上で目標達成に向けた努力が期待される。県として、今後も南薩地区衛生管理組合及び構成市の施策を積極的に支援していく。

(生活排水処理)

引き続き下水道や合併浄化槽の整備を推進していただき、目標達成に向けた努力を期待する。

※令和7年3月31日までに承認された地域計画については、なお従前の様式にて提出できるものとする。